

# 新 潟 縣 公 民 館 月 報

(昭和35年3月18日第三種郵便物認可)

昭和38年12月1日(毎月1回1日発行)

発行所 新潟県公民館連絡協議会  
 (新潟市一番瀬通町・県教育庁社会教育課内)  
 (電話(新潟)3411の658)  
 (振替(新潟)4094)

発行人 飛 田 一 郎  
 (定価 1部15円)

12月号 (130号)

## 地域公民館で分科会

### 文相も出席、新方式実る



広島大会終る

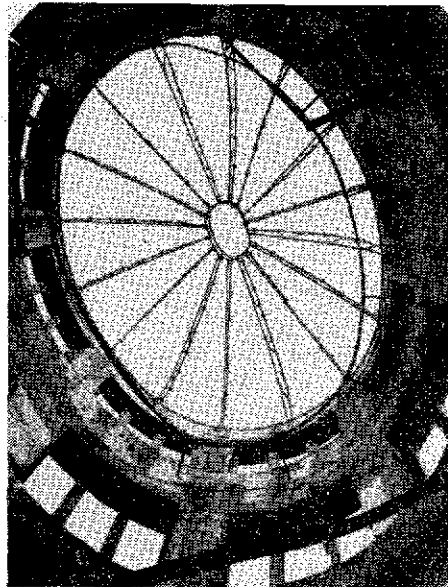
十一月十三日から三日間、原爆の地広島市で第十二回全国公民館大会が開催された。大会主題である「地域社会における生活文化の向上発展に資するため公民館はいかにすべきか」を中心、全国各ブロックで積み上げられた問題を討議、最終日の全体討議の結果別稿のような宣言決議を採択して幕を閉じた。

沖繩本島からは飛田本会長、全国表からの彰の梅山副会長など二十二名が参加者参加した。大会第一日は簡単なさぶくオリエンテーションにはじまり、め総勢演出も、視聴覚機材を使用し、一千数など新機軸がみられた。このあと百名、市内の二会場と市近郊の六公民館

で分科会が行なわれた。全国大会において地域公民館で分科会をもつことについては新しい試みとして注目されていたものが、ガイドを乗りこませた観光バスによる会場移動といながらにして施設々備の完備した公民館を見学、しかも地域あがりの歓迎ぶりも好評で、思いのほかの成功をおさめた。

最終日に大会式典が行なわれ、守田全公連会長のあいさつ、表彰式、地元出身の瀧尾文相の祝辞等があったが、被表彰者代表が謝辞のついでに文相に対し、タイムイングのよい口頭陳情を行なうなど盛り上りをみせた。

記念講演も地元広島大学学長皇至道(すめらぎ・しじょう)氏が、「人つくりと社会教育」と題して



(大会場からも見えた原爆ドーム真下から撮る)



(爆死者慰霊塔に供えた大会参加者一同の花輪)

#### 目次

- 広島大会宣言決議…………… P. 2
- 第三回県幹部職員講習会…………… P. 3
- 第十二回全国大会分科会のあらし…………… P. 4・5
- 全公連大会に参加して…………… P. 3・7

#### 12月の歴史

##### アムンゼン

一九一一年この日はじめて南極点到達したノルウェイの大探検家。一九二六年には航空船による北極探検に成功した。

× ×

このわれわれの住む世界において、未知として残されたところのものは、すべての人々にとっての重荷である。それは人がいまだ征服しつくさぬことを許さず、また人類の弱さを証立できるものとして、また自然を知りつくす上においての、いまだ果されざる法蘭状として残るものである。一切の破せられたるものをこきあかし、すべての未知の区域を探検すること、それは全人類の精神を高揚せしめ、勇健の気を強めるものである。文明を促進し保持する強固なる精神力の結合こそ、この道なき道を行くものでなければならぬ

(アムンゼン)





# 第12回全国大会分科会のあらまし

全国大会分科会で話し合われたものをまとめる  
と、およそ次のようなものになる。公民館設置  
は義務制とすべきである。施設補助は定率補助と  
せよ。職員給与は一部国庫負担とせよ。地方交付  
税の積算基準を増額せよ。地方大学との連  
けいを強化せよ。職員研修制度の確立を急  
げ。職員の身分保障と待遇の改善をせよ。  
活動の必要課題を見出せ。公民館整備の国  
民運動をおこすべきである。以下そのあら  
ましを大会速報から抜粋してみた。

## 第一分科会 (平和記念館)

行財政を中心とする管理運営  
(都道府県関係者)

第二日の討論は次の  
一 主事の専門職化について  
二 文部省の示す設置基準、道  
三 志に集中された。

## 第三分科会 (呉市中央)

独立専用施設をもつもの  
(都市地帯関係者)

一、公民館に人が集  
ること、組織の再編成、二、二  
まらぬ。  
各地域の公民館活  
動に参加する人が少  
ない。一割公民館な  
いといわれても仕方  
ないといわれる。不  
得ない。それでは人  
は本當に集まらない  
かというところでも  
ないようである。  
施設設備を充実す  
課題の中でできることから一歩一

道府県の現状  
公民館を、一般に正しく認識  
させるためには  
三十余名の小会ではあったが、  
第一日にまさる激論の終始で、  
それに権威者揃い、高度な討議内  
容には、記録者もたじろぐ。とく  
に、現段階における文部省あたりの  
の公民館育成に対する、手ぬるさ  
への憤慨は、火を吹くばかりのす  
まじろ。

まず、主事の専門職化の是非に  
ついては、「純粋な議論にもつ  
いもの」と、「現実(地域の実情  
等による)の問題から」の二面か  
らの考え方があつた。  
主事の中にも、公民館そのもの  
の何たるかが、わかつてない職員  
も多いが、地域住民の人的内容  
の高まりからいっても、専門職と  
しての資格者は必要だ。といった  
発言。それが法制上の改正が基本  
になるなら、現段階としては、専  
門化は無理だ。それより、また職  
員のいない公民館もある種だから  
主事の必置制が先決だ。また、地  
域によっては、専門職化するこ  
とが、所属市町村の職員として、不  
利な条件下に置かれる、といった  
心配もある。という意見など、討  
議の尽きざるまま。

その理由の中に大学が本當の  
意味で働いていないことも一つの  
理由である。文部省も大いにこの  
点を再確認して委嘱費を増大し、  
大学陣が自由に社会教育の場へ出  
られるようにしたい。この点  
公民館も全公連の名において文部  
省当局に働きかけぜひ大学解放を  
強力に進めたい。  
神奈川県川崎市では地元大学陣  
で。

## 第二分科会 (平和記念館)

(市町村関係者)

財政の問題について、公民館の  
施設に対する補助額は現状では  
余りに他の事業に比し貧弱である  
この点について文部省も極力意を  
注いでいるが、市町村の熱意につ  
いても固に十分反映するよう、市  
町村の世論を高める必要がある。  
財政基準額の積算基礎の細分化と  
公民館の名称をつけたがる。それ  
面期の増額が望まれる。

歩前進することである。  
二、二という言葉の持つ意味も  
本来日本語に適切なものがないか  
ら、そのまま二二二二といっている  
の人々が何を要求しているのか、  
何を必要としているのか、というこ  
とであり、また地域の人々の意識  
の底にはあるのだが表面に出ない  
二二二二あることを表面において  
これら必要と要求が表面に出る  
う話し合うことも今後に課せられ  
た大きな問題である。  
二、大学解放がねがいます。  
日本の社会教育を大いに視野が  
と見ると、各国に比して遅れてい  
上に資するため

## 第四分科会 (同矢野町)

(農山漁村地帯関係者)

どんな内容と着眼点と行政に何ぞ  
のそんでやっているか、まず各地  
の問題は「金」といっていい。  
も一般への誤った認識を植えつけ  
てくる原因の一つになってはいない  
か。そのために、かりにA・  
B・Cといった評価基準も必要に  
なってきたのではないかと、という  
発言に対して、絶対反対討論。  
結局のところ、人も施設の整備だ。

職員問題については、専門職の  
中味は具体的にいつてどのように  
考えられているか、また人事交流  
についての問題が出され、まず、  
何よの資質の向上についての方策  
それに伴う公民館主事の職分につ  
いて論議された。学校教員費余業  
予算と人事交流についても話しが  
れたがその機運促進に協力された  
の活動状況の交換をする。  
新潟県では健康地区の育成で各  
種関係団体で準備ができて  
とくに顔を一つこむよう努力して  
いる。  
山口県よりは団体の反省から活  
動には目標を立てて住民協力を  
の達成に前向きになるよう条件  
のじょう成を行なうといひよう  
に思ふとの発言。  
徳島県においても山口県と同様  
の考えで田舎に縁がくるようま  
ず経営を思かす。健康に留  
意、教養を高めることに努力し  
ている。  
4福井県では講座に主力を注いで  
いる。たとえば、山の中の着  
物の使用状況調査、医療費調査な  
どによりその実数を示し住民の  
豊かな生活創造の意欲をしなく  
発している。  
生活文化とはなにか。  
生活文化とは健康な生活であらう。  
生活意識を高めることだ。  
生活とは何かと言へば、そのこ  
ろおすべつてのものがはいるので  
はないか、さういふ文化遺産  
をつんでいくことだ。  
4福井県では実践活動の成果を他

公民館職員数の基準服務について  
もまた結論までおぼろす。これか  
ら研究を要する点もある。

公民館をいかに効果的に運営し  
ていくかについて現在ではもう創意  
工夫すべき時であり、年次計画の  
必要性、その責任に重きを置けるた  
めの愛媛県の一公民館一課議の綜  
合推進の紹介もされた。  
西宮市、加古川、八幡市など、  
先進地の発展の歴史の中には、言  
葉、機会、公民館人、地域住民、  
行政機関などの指輪と協力があっ  
た。

公民館本質の理解普及と並に、  
具体的条件整備の必要性が再確認  
された。それは国家的にも、県政  
略、町村段階でも、各教育行政の  
主体的推進にまつことが大き  
い。

# 地域社会における生活文化の向上発展に



【写真は第五分科会の行なわれた府中町南公民館、その施設・設備の完備ぶりは目をみはるものがあつた】

地区と比較して矢野町公民館では人間の生きる価値反省している。その基礎は①部活動は民主化している。②青少年が助言者より生活文化と生活し順調に成長して便利に、美しく調和的に発展させているか。③公民館の思考、行動、態度、努力の総体選考が推進して来た。

## 第五分科会 (府中南)

併置または施設のないもの (都市地帯関係者)

公民館の求めるな話題を皮切りに、現代の日本人間像とはどんなに欠如した面として、宗教教育にものが理想である対する社会教育法の禁止事項に対つかという基本的し、限った概念から政治問題と同一

また公民館充実のための組織づくりに関係が考えられるが、住民を動かすための「演出」の役割は工から出た。リーダー開発の味と小平市など現の動きとして、あるべき将来の公民館はこうなんだとする理想的な密を描き、関係者が努力しているようであった。

## 第六分科会 (府中中央)

(農山漁村地帯関係者)

動的リーダー(一つの知識技能をもつ)グループ(精神的、感情的な人)グループの両方とも必要がある点が指摘される。グループは忘れられがちであるが、もつと優等生だけでなく、不良生徒的な内容グループをも考慮に入話合われる。

活動内容をどう組んでいるかー 事例ー美容学級の開設で  
 ・職業教育・テニサンなど  
 ・一般教養・生活記録の中から生活教養・生花、ペン習字  
 ・産業、家政コース  
 ・各戸に黒板を設置、家計簿をつける運動とその結果の検討  
 ・人づくりをめざす学習として、主権は公共の福祉を阻害しない人間

## 第七分科会 (広島中央)

国民運動を中必とする部会 (都市地帯関係者)

公民館として公明選挙を進めるのむい上げる方が良いのではな  
 ○公民館は人づくりの場  
 ○公民館関係者自身が政治意識を  
 ○公明選挙を頭から打出すことは  
 ○公明選挙運動は国民運動なの

この分科会記録を読んでの御感想をお寄せください。  
 ○また宇佐川助言者は都市公民館の本質的機能を再確認

専門性を身につけるべきである。専門性とは一般教養的なものでなく地域課題に際する知識技術の指導性……そのためには主事の相互連けいによる専門性の確立、主事の研修制度の確立などが必要である。  
 3 移動公民館、移動学級、講座など、時期、場所を得るべきである。このためには、住民の組織づくり、リーダーの確保により、受け入れ体制を自主的につくるべきである。  
 ○公民館関係者自身が政治意識を  
 ○公明選挙を頭から打出すことは  
 ○公明選挙運動は国民運動なの

この分科会記録を読んでの御感想をお寄せください。  
 ○また宇佐川助言者は都市公民館の本質的機能を再確認

(次ページ下へ)



# 前向きの運営に感心

## この目で見た全国大会

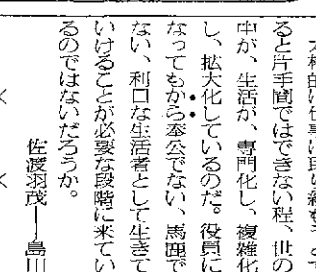
花野長次郎

昭和三十年八月六日世界最初の原爆で全市民焼死し、以来七十五年間草木も生えぬ原野の地といわれながら、見事復興した意義深い新生広島市に開かれた第十二回全国公民館大会、公民館人として、公民館を「村づくり」や「町づくり」あるいは地域の総合開発の推進力たるべきであり、社会教育振興の基礎をなすものではないか」と心ひそかに期待を持って参加した。

広島をめざし復讐の予を全国各県にも配布されるという人が見たいという気持もあってのことであるが、果へ配布の上はさか、平和公園内にある主会場広島つくし信用し、各公民館人も大市公営に千余名という多数の参加者までであらうと思う。

加者があり感会をきわめた。本大会の運営について大会事務担当大会第一日、文部省中島専門員に、総ての面で行うという苦心による進捗する社会と公民館運営に、されおったが、特に分科会場はと題したオートスライドによる、広島市および近隣地区の公民館をオリエンテーションは実にすんで、当それそれの分科会場の特色をきておし、今後公民館の行くべき生かした運営をしていくこと、参道をおしたものと参加者一同加者がそれぞれの公民館のすべれも感心させられたようであった。た施設を見学できたことは大いに近くこのオートスライドが、文部 意識深かった。

### 三毛猫の記



従来、とかく全国大会といえは単なる型式上の総会というところなるものが多く、意味のないのが常であるが、この全国大会は、施設設備の充実がなされ、公民館が真に

### 馬鹿は役員

#### 利口は出稼き

「まだあれやってくれ  
ていませうか」  
あれというのは公民館の役員のことです。バスの中でかかって現れたN氏にひよってり合ったので、公民館の役員をまたちてく

「役員をまたちてく  
るおそれるごう聞いてみた。  
「はあ、今度ゆるめんです。今日はその意味もかねて、忘年会に

行くとです」  
十一月十五日に忘年会とは、ちと早すぎると思わけてわけを聞いてみることにしました。

「公民館は役員は、  
「みんな出稼きに行くんですよ。  
だから今やらんと忘年会さえて  
きんのです。勿論差別会も兼ね  
てね」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

### われらのグルッペ

現在では会員も五十  
余人に増し、七月の  
力、今年六月ついに十七万円  
四周年記念にはホビ  
ユラーだけではな  
く、やがてクラシッ  
クもといことを念  
願に改名を決定し、  
「加茂市LP愛好会」  
と改め新しくスター  
トした。

音楽を通じての文  
化活動により豊かな  
感情を育んで明るい社  
会が築かれることを  
目的として、毎月一回、向上し  
たレコード録音技術をフルに活  
用し、会員及び一般の人たちに  
も鑑賞していただいている。

さて今日までの事業は、毎月  
の例会はもとより、今年五月十  
二日に加茂市の他、音楽団体と  
共に、新潟交響楽団の加茂公演  
を主催したりして、なまの音楽  
を市民の口と耳に感じとって  
たい。

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」  
「役員は役員さ」

